

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1052 号	氏名	陶山 和晃
学位審査委員	主査	沖田 実	
	副査	迎 寛	
	副査	本田 純久	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、夫の喫煙による環境たばこ煙（<b>Environmental Tobacco Smoke</b>, 以下、<b>ETS</b>）曝露が非喫煙女性の気道閉塞に大きな影響を与えているのではないかという仮説のもと、未成年期や他の同居者からの <b>ETS</b> 曝露などといった家庭内の潜在的な曝露要因も考慮した上で、上記仮説を検証したもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>対象は長崎県内で行われた慢性閉塞性肺疾患検診事業に参加した 40 歳以上の非喫煙女性 811 名である。これらの対象者を質問票の回答の家庭内同居者の喫煙者の状況を踏まえ 3 群の <b>ETS</b> 曝露群と同居者全員が非喫煙者であるコントロール群の 4 群に分類し、対象者特性について種々の統計手法で比較するとともに、各同居者からの <b>ETS</b> 曝露による気道閉塞への影響（1 秒率：70%未満）を多重ロジスティック回帰分析にて検討しており、研究手法としても妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、家庭内での <b>ETS</b> 曝露によって呼吸器症状が発生し、1 秒率も低下することが明らかとなり、特に、夫からの <b>ETS</b> 曝露が非喫煙女性の気道閉塞の発生に強力かつ独立した危険因子であることが示されている。つまり、夫の禁煙が非喫煙女性の気道閉塞の発生を予防するための重要な対策の一つであることが示唆されており、今後の受動喫煙対策においても重要な情報提供になることが期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は呼吸器病学分野の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			